

このたびは、計画行政学会の第21回計画賞特別賞を授賞いただき、こころから感謝いたします。「永続地帯研究」は、2006年から、千葉大学の倉阪とNPO法人環境エネルギー政策研究所の松原が共同で始めたプロジェクトです。倉阪において作業の原資を各種研究費を継続して確保し、松原において各種の情報の収集・分析を指揮するという役割分担を進めてまいりました。大学生、インターン生などメンバーの入れ替わりがありましたが、全市町村のエネルギー自給率と食料自給率を算出する作業を20年にわたって継続することができました。この研究を始めた当時は「脱炭素」ではなく「低炭素」と言われた時期で、福島第一原発事故の前でした。2012年から固定価格買取制度の実施によって全国で再生可能エネルギーの導入が進展しました。「永続地帯研究」はその効果を具体的に確認できる指標となりました。「脱炭素」はまだ途中でありますので、引き続きこの指標を継続的に発信していきたいと思います。関係のみなさまのご協力を心から感謝するとともに、今後もよろしくお願い申し上げます。

倉阪秀史、松原弘直